

「学園都市」と称される野々市市では、金沢工大生がさまざまな課題活動を展開し、まちづくりに積極的に関わっている。開学から60年、地域で存在感を増す同大の学生と市民が連携する現場をのぞき、学園都市に吹き込む新たな「風」を体感した。

(野々市支局・水上良)

金沢工大のキャンパスがある高橋町では、人気ラーメン店だった建物を再生するプロジェクトが進行している。来年の春ごろに「コミュニティカフェ」へと生まれ変わる予定で、施工から運営までを担うのは建築学部だ。

「完成する姿を早く示して、活動を本格化させたい」。プロジェクトのリーダーの田中壮汰さん(21)は、参加希望の学生のやる気に応えたいと意気込む。

コミュニティカフェは建築学部の学生らが課題研究を公開したり、普段接点のない学生同士が出会う場となる。キャンパス外に設けることで一般市民にも立ち寄ってもらえようとする。

異例のチャレンジ

設計に当たって学生からデザイン案を募り、コンペを開催した。最優秀案をもとに設計デザインを作成中だ。秋にも始まる内装工事は、学生がプロの大工と一緒に進める。指導教官によると、同大の学生に

建築学部の挑戦

とって過去に例がない実践的なチャレンジになるという。

設計コンペで最優秀になった角屋圭祐さん(23)は「修士1年」は「単に人が集まる場所というだけでなく、事務仕事ができる使いやすさも考えていきたい」と意欲を語る。

不動産会社も協力

プロジェクトに協力するのが、野々市市に本社を置く不動産会社の絹川商事である。相談を受け、社員が学生と一緒に物件を探し

た。

決め手になったのは大学のすそ野という立地。ラーメン店だった当時は学生だけでなく地域住民にも親しまれた。社内で空き物件の活用策を模索していたところ、渡りに船で工大の企画が持ち上がったわけだ。

同社は金沢工大生が入居するアパートを多く扱う。10数年前から建築学部の学生と連携する機会が増えた。旧北國街道に沿いに休憩空間「広見」を整備した際には遊具の制作を学生が担当。過去には学生アルバ

イトのスタッフが設計に参加し、学生のライフスタイルに配慮したアパートを建設した実績もある。

活用する空き店舗は木造2階建て。面積が学生の希望する機能や仕様の実現に足りないことを聞き、一部増築を決めた。ビジネスの枠を越えた前めりの姿勢である。

絹川善隆社長(56)は「まちづくりに参加する機会を学生に提供し、建築に関わる人材育成につなげたい」と期待する。

プロジェクトのメンバーからは、建築やまちづくりについての「市民相談所」になればいいとの声も聞こ

設計、運営学生の手で

えてくる。どんな場所に生まれ変わり、そこを拠点に学生がどう活躍するのか。オープンが待ち遠しい。



コミュニティカフェに再生される飲食店跡

野々市市高橋町

設計模型を前に話し合う学生と教官
野々市市の金沢工大

ラーメン店を交流拠点に

